

令和5年度予算総括質疑の概要

令和5年第1回二宮町議会定例会

日時 令和5年3月9日(木) 午前9時30分より

No.	質問議員	質問の概要(本人の提出原稿)
1.	前田憲一郎議員	<p>令和5年度の予算案は、新型コロナウイルス感染症の新規感染者は減少しているものの先行き不透明なコロナ対策が重要視される中、第6次二宮町総合計画前期基本計画、第2期子ども・子育て支援事業計画、役場新庁舎建設、駅北口駐車場に複合施設の建設計画、他の公共施設も含めた分散・集約の検討や各種事業を実施し推進していくための予算であると認識するところである。当初予算案を見ると歳入の柱となる町税が3千万円余り増えたが、老朽化した公共施設の長寿命化計画、各地区要望への対応、町有未利用地をどのように活用していくのか等の課題が山積している状況下において精査された予算案として評価できるところもあるが、町長の所信表明、施政方針に則り行政運営を進めていく上で、町民の利益、生活の向上を最優先にした予算案なのか疑問点が出てきた。そこで、次の要旨についてご答弁いただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none">① 昨年12月議会で野地議員の質問の答弁で全事業を精査検討するとお話になり、私の質問に対しても財源を早急に見直すと答弁されたが、全事業をどのように精査し、財源を見直したのか。② 所信表明にあった8つのまちづくり宣言と具体的な施策について、どこにどのように予算付けをしたのか。予算の重点項目について重点項目はどこであり、全事業を精査し、財源を見直した結果どこに重点的に予算付けをしたのか。③ 施政方針を伺うと新たに6項目にわたり述べられているが、一昨年の答弁で町有未利用地の有効活用について検討していくということであったが、その後何も話がない。検討した結果、このようにしていくと検討した結果の方向性を出すべきではないのか。今後どのようにしていくのか検討した結果を伺いたい。④ 町の公共施設の運営経費を見ると負担額が多すぎる。これほどまでの多額の負担をしてまで存続させる理由について、また、町の負担率はどの程度が適当であるとお思いか。⑤ 子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育の町づくりとなると、子育て世代の移住を推進することになる。子育て世代の方の関心の一つは子育てに関わる助成金だと思う。県は小児医療費補助を12歳までに拡充し、浮いた財源を子育て支援の充実に充てるよう求めている。浮いた財源をどのように子育て支援に活用していくのか。⑥ 8つのまちづくり宣言と具体的な施策の一つに、ひとりでも暮らせる、気かけあうまちとあり、さまざまな角度から検討し、移動手段の確保とあったが、どのような検討をしたのか。「地域の通いの場」の充実にあったが、予算は相も変わらず少額。どのようにして充実にさせていくのか。また、ヤングケアラーに対する支援はいかがするのか。⑦ 数多く出されている地区要望に対し、5年度はどのような方針のもと対処されるのか。

2.	古谷 健司議員	<p>○「公共施設の利便性・機能性を高めるまちづくり」</p> <p>・令和5年度予算には、役場新庁舎建設、果樹公園の取得、駅前複合施設の検討などが位置付けられ、今後、多くの財源が必要になる。一方で、未利用財産の活用という視点では、大規模未利用町有地である正泉寺跡地、東京大学果樹園跡地、国立小児病院跡地活用の方向性について、令和4年度に改定した公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に位置付けられているものの、これ以外に町が所有する多くの未利用財産については記載がない。</p> <p>そこで、未利用財産、いわゆる普通財産の面積等の現況把握の状況、草刈り等に要しているランニングコスト、そして今後の活用の方向性をどう考えているのかを伺う。</p> <p>○「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」</p> <p>・小中学校給食の無償化の実施について令和5年度は、給食費の高騰分の補助として1千万円の予算が計上された。昨年までは、新型コロナウイルス対応の国の臨時交付金を利用し給食費の高騰分の補助をしてきたが、令和5年度の財源は何をを考えているのか。</p> <p>また、私は12月定例会でも、給食費の段階的な無償化について、早期に中学校3年生から段階的に無償化をしていくことを提案した。施政方針では、将来の給食費の無償化に向けて、持続可能な制度とするため、公共施設の再編なども踏まえ財源の検討を進めるとあるが、財源についての現時点での考えを伺う。</p> <p>・二宮中学校では、令和2年度に寺子屋という学習指導を行っていたようだが、地域と学校が連携して、児童・生徒の学力向上を行うというのはとても良い取り組みだと考える。この事業をさらに進め、学習指導、特に学力の低い生徒・児童に勉強が教えられないか、生徒・児童の学力の底上げができないか。</p> <p>そこで、現在、コミュニティ・スクール運営促進事業補助金について、その使い方がどのように決められて、何に使われているのかを伺う。</p> <p>また、この補助金について、国や県からの補助はないのか、地域学校協働活動と連携して事業を展開する考えはないのかについて伺う。</p> <p>○「気候変動に対応した安全・安心なまちづくり」</p> <p>・令和5年度予算には、公園統廃合計画の推進と公園施設長寿命化計画の改定が位置付けられているが、吾妻山公園をはじめとする二宮町の公園は借地をして整備されているものも多いと聞いている。</p> <p>そこで、現在、借地をしている公園用地の面積と地権者数、年間の借地料、そして借地の解消に向けた今後の考え方について、公園統廃合計画にどのように盛り込む予定であるかを伺う。</p>
----	---------	--

3.	大沼 英樹議員	<p>① 新庁舎整備関連について待ったなし、スピード感を持って聞いてきたが前4年間をかけた結果として私たちが夢を抱けるような具体的な説明を求める。</p> <p>② 施設再編推進事業費の2億3千万円中、ラディアン周辺行政機能等集約基本設計委託料4,620万円ほどの様な内容を期待して予算化したのか。</p> <p>③ 今年度、新庁舎整備基金に9千万円の積み立て、他の基金は60万円程度であり、とりあえず付けたかの予算に見える。施政方針にも公共施設の老朽化を心配しているが、他の基金に関しては現在積み上げている額で満足しているという事が財政計画を聞く。</p> <p>④ 1億2,628万円の予算計上をしている「たばこ税」は現町財政の中では大きな税収であると考えるが、歩行喫煙や吸い殻の投棄、受動喫煙防止についての事業は予算書からは見受けることが出来ない。町として喫煙者・非喫煙者に対しての配慮を聞く。</p> <p>⑤ 子育て支援について、大磯町は小学校の給食費無償化や18歳までの医療費助成拡大などを発表している。二宮町は自主的な大きな施策が行われているように感じない。給食の無償化やオーガニックについて段階的に進めるとの事だが、予算に余裕がないわけではない。小中一貫教育校の計画も教員の配置基準から補助金不足を緩和したいとの意向を感じる。4月から始める「にのみや学園」が子育て世代に選ばれる町となるのかを聞く。</p>
4.	一石 洋子議員	<p>町長の施政方針について以下の項目ごとに問う</p> <p>○「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」</p> <p>役場新庁舎整備は駅前複合施設基本構想含めここ8年の村田町政の住民、議会と合意形成に尽力してきた最重点施策といえる。ここ8年の巨大地震、異常気象を筆頭にコロナウイルス感染症、現在のウクライナ戦争と激変する社会状況とその影響をいかに受け止め、また最新の専門家による研究成果、二宮町の特質をいかに活かして進めるのかを問う。</p> <p>○「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」</p> <p>① 「子どもが救われるためには親が救われなければならない」とは今の日本の母子保健施策の力強いお手本となったフィンランドのネウボラという妊娠期から未就学時期までの子どもと家族をサポートするための公的機関の重要なメッセージだ。「子育ての社会化」という言葉で従来の家族主義的な養育システムに頼るのではなく、より幅広く社会で支えていくという日本の施策に大きな影響を与えた。しかしながら現在、最も重要で社会全体で守らなければならない大切な命のはぐくまれる場である妊娠期から未就学時期のケアにより本質的な力強さが必要な局面になっている。</p> <p>「出産前から切れ目のない支援と将来を見据えた教育環境の整備」の施策の推進を評価する。</p>

		<p>特に宿泊型の産後ケア事業については全国的に展開されており、国の提案による子育て包括支援センター事業において迅速な対応をしてきた二宮町がこの施策を誇れる内容にすることは喫緊の課題と考える。この事業の内容と効果についてまずは確認する。</p> <p>② また、学校教育が子どもたちの成育環境の肝であることから自治体の創意、意欲が試されるところだ。「にのみや学園」として多くの子どもたちの教育環境を支える交流プロジェクトと町単独予算による教員の補充など評価する。不登校児童生徒に寄り添う一人ひとりの教育的ニーズに応じた校内の多様な居場所づくりの予算の内容と事業効果の見通しを問う。</p> <p>○ 「気候変動に対応した安全、安心なまちづくり」</p> <p>未来を担う子どもから大人までを対象としたさまざまなパートナーシップとある。子どもたちに誇れる故郷の物語を作れるのか正念場である。想定している気候非常事態宣言の効果を問う。</p> <p>○ 「誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」</p> <p>① 福祉相談支援システムの導入の効果として福祉分野と教育分野の連携強化を挙げている。どのような具体の動きを想定しているか。</p> <p>② 生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために二宮町健康増進計画・食育推進計画・自殺対策計画を一体的に策定、ともに生きる障害福祉計画、あらゆる世代がいつまでも継続して気軽に生涯学習に取り組み、成果をいかせる環境づくりを目指し、二宮町生涯学習推進計画を策定するとある。</p> <p>計画策定が生きた政策推進となるような健康・食育、自殺対策、障害福祉、生涯学習などにかかる場づくりについて計画の中にどのように位置づけようとしているのか問う。</p> <p>○ 「活力がみなぎり、選ばれるまちづくり」</p> <p>○ 「新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり」</p> <p>今、日本の自治体に求められるのは、都市近郊の人口流入競争を意識したほんの4年ほどの任期を想定した対応策ではない。そもそも村田町長は足腰の強い自治体を目指すといわれていた。</p> <p>イノシシが出没するのは原発事故で住めなくなった町が野生化するのと根本原因は変わらない。</p> <p>山が荒れ、人が野外で風土にかかわる活動しないからだ。それは防災力、レジリエンス（回復力）の劣化につながる。</p> <p>町の特徴や資源を生かしたビジネスモデルの構築、農地の有効活用、観光とも連携した経済活性化を「新しい時代に向けてしなやかに対応するまちづくり」の多様な主体との連携の強化によって道を開くとすれば、例えば増え続ける空き家を活用し、農業、観光などと連携して経済を活性化する必要があると考えるが、まずは町内における空き家の現況と対策について問う。</p>
--	--	--

備考：2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
 本人の通告書の原稿を転記したものです。